

平成21年度 青雲高校 学校評価シート

* a:よくできた b:できた c:あまりできなかった d:できなかった
 成果の数値は5点満点に換算したものである。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果	自己評価	生徒アンケート	生徒評価	学校関係者評価	今後の方策
開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	実践目標	「青雲通信」などの定期的な発行や学校HPの有効な活用を図り、学校・家庭・地域との連携を円滑に進める。		「青雲通信」などの定期的な発行物や学校HPは役立っていますか。 成果 3.59		定期的な発行物や学校HP、各種の行事などを通じて家庭や地域との連携を深める努力が感じられますか。	「開かれた学校づくり」を一層推進するに当たり、保護者参観日の取組方法とクリーン作戦の参加人数の拡大策およびクリーン作戦以外の地域貢献を関係機関と相談していく。また、来年度はオープンキャンパスを開催する方向である。学校評議員・学校関係者に対する説明を充実するため、会に出席する教員の分掌についても検討する。
		成果 4.08	学校HPをより利用やすくするために一新した。また、青雲通信も内容を精選し、より読みやすく工夫した。今後、生徒・保護者・地域住民等への情報の発信源として、適切な工夫と改善に努めたい。					
	実践目標	学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。		学校行事や文化祭・クリーン作戦などに参加しましたか。 成果 2.17		・積極的努力を感じる。「せいりん長商ふれあい祭」を「青雲通信」で詳しく紹介する等多面的な取組をしている。 ・努力が感じられる。「青雲通信」は読みやすく、役立っていると感じられた。 ・清掃活動そのものは地域からは喜ばれる活動なので、生徒会を中心に地域の自治会と連携することも大事。 ・HPは常に更新が必要。 ・携帯サイトへの対応など時代の変化に応じた対応など評価できる点が多い。		
	成果 3.85	ふれあい祭では、エコチケットを発行するなど環境問題に対する意識の向上に取り組み、参加型の企画に成果が見られた。また、年末年始に集中していたクリーン作戦は実施時期を分散して行い、認知度が高まった。今後とも、家庭・地域との連携を深めるための活動を地道に推進していく必要がある。						
	実践目標	学校評議員の一部委員を交替して、新たな視点や観点から本校の教育活動に対する意見を聴取し、学校運営に反映させる。				学校評議員の意見を尊重して学校運営に役立てる努力が感じられますか。		
	成果 3.82	学校外部という別な視点からの建設的な意見を聞くことができた。全日制高校とは異なる通信制高校における、保護者や地域との連携をより強めていく取り組みを進めていく必要がある。						
学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	実践目標	学校評議員に本校HPの閲覧及びスクーリングの参観をしていただき、それについての意見を聞き、情報発信方法や授業の改善に役立てる。					・学校評議員会はもとより、日常的にも努力していることを感じる。スクーリングの参観等、具体的な努力が感じられる。 ・前向きに取り組んでいる。保護者へのアプローチ(親の会、授業参観など)の努力が感じられるが、更なる努力を期待する。 ・学校評議員がもっと学校に来る時間が必要。青雲独自の授業システム等を理解しているか疑問。 ・管理職ばかりでなく、やる気のある教員の説明を聞きたい。その上で提案や意見を出したい。	
	成果 3.91	通信制高校の必要性・重要性についての理解や認識が、一般的にはまだまだ不十分であり、保護者との連携も希薄である。学校評議員の助言を基に、授業内容の精選や工夫、保護者授業参観などの取り組みを一歩ずつ前進させていきたい。						

生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	実践目標	安全な学校、より健全な学校の創造を目指し、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を進める。		禁煙指導や校内巡視を通して安全な学校づくりが進められていると感じますか。		評価内容	安全で楽しい学校生活を送ることのできる環境づくりが進んでいると感じられますか。	安全で楽しい学校生活を生徒に送ってもらえるよう図るに当たって、今まで以上に生徒の状況をきめ細かく見極め、教員の一方的な取組にならないよう企画運営する。
		成果 4. 22	まだ完全とはいかないが、校内での喫煙や迷惑行為等は、あまり見られなくなった。ただ、年度が変わればまた「ふり出し」に戻るので、引き続き注意が必要である。	成果 3. 22					
		実践目標	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加数の増加のための方策を研究・工夫し、帰属意識の涵養を図る。				評価	<ul style="list-style-type: none"> 校内巡視・学校行事等、機会があるごとに環境づくりを進められていると感じる。 生徒の受け止め方と学校の努力姿勢が必ずしも一致していないとすれば、見えないところで生徒たちはいろいろ感じているのかもしれない。きめ細かな関わりが一層進められることを願う。 インフルエンザの時、生徒にどのように連絡を取ったのかを教訓に、今後に活用してほしい。 学習指導のみではなく課外活動にも力を入れている点に共感した。 	
		成果 3. 39	文化祭の内容等での工夫により、ある程度の成果が見られたが、まだまだ改善の余地がある。						
		実践目標	各学校行事の内容を工夫し、生徒が地域と関わり、貢献できる機会を増やす。						
	成果 3. 65	文化祭の企画内容の工夫や近隣住民へのPR活動の強化によって、改善された。							
	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	実践目標	キャンパスカウンセラーと教職員との交流(事例研修会)を設け、生徒理解の共通認識を深める。				評価内容	生徒の内面を理解し、支援する努力がされていると感じますか。	
		成果 3. 82	キャンパスカウンセラーとの緊密な連携の下、生徒の実情の理解を深めてもらえた。カウンセリング後のコンサルテーションや研修会が、職員の資質向上に貢献している。						
		実践目標	「相談室だより」や教育相談に関わる掲示物、学校HP等を通して、カウンセリング情報の広報に努める。		キャンパスカウンセラーがいろいろな相談にのってくれることを知っていますか。		評価	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスカウンセラーに教職員が積極的に相談されており、学校HPに掲載する等、支援する努力がされている。 月2回のスクーリングのなかでの努力は大変と感じる。担任はもとよりカウンセラーとの連携、発達障害に対する共通理解に努力を感じる。 キャンパスカウンセラーを上手に活用しているが、相談後のフォローを大事にしてほしい。 カウンセラーの周知がもっと必要。 教員の理解が進んでいるので現在の生徒の状況がよく伝わってきた。 	
		成果 3. 72	学校ホームページに「カウンセリング予約状況」を掲載したところ事前予約がふえた。当日までに予約の詰まった日がほとんどとなった。	成果 2. 50					
								キャンパスカウンセラーによる教育相談の認知度を上げるため、本校のホームページの活用を考えている。また、キャンパスカウンセラーやスーパーバイザーのアドバイスを全教職員に伝えて生徒指導や教員による相談の中で生かしていく。	

進路指導	進路指導体制の充実	実践目標	年度当初に年間計画を全職員・生徒に示し、各時期における必要事項の確認を随時行う。		就職や進学に関する情報や手続きの仕方がよくわかりますか。		<p>今年度は生徒アンケートにおいて対象生徒にずれが合ったため低い数値が出ている部分があると思われる。進路選択に関する情報や手続き、インターンシップ関連の連絡については生徒への周知を図るため、定期発送を十分に活用して、紙面に工夫を加える。また、障害のある生徒の就労については特別支援教育委員会と連携を強める。</p>	
		成果 4.01	職員には4月職員会議にて、生徒には定期発送にて年間計画を知らせた。また、各事業の実施時期の直前にはそれぞれ、詳細について知らせた。	成果 2.47				
	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	実践目標	進路指導部と全担任が協力して大学・短大・専修学校等の情報を収集し、ネットワーク上でその内容を共有する。		(1・2年次のみ) インターンシップについての案内を見えていますか。 ※案内は2・3・4年次生徒のみ、配布した。今回のアンケートは1・2年次生徒のみが回答している。 ※右グラフは各質問項目の回答者数÷全回答者数で計算した数値である。 成果 1.79			
		成果 3.65	進路指導部と3・4年次の担任を中心として、各学校の入試説明会等に参加して最新の情報を収集した。その結果については、まとめでPC上にて報告し、全職員で共有できるようにした。	成果 2.88				
	実践的指導力の向上	実践的指導力の向上	実践目標	関係機関と連携して、インターンシップを実施し、生徒の進路意識を高める。		(3・4年次のみ) 「進路のしおり」や就職説明会を通じて、正社員になることの有利さや大切さがよくわかりましたか。 成果 2.88		<p>本校の課題、生徒のニーズを踏まえた計画的な研修を進めていく。</p>
			成果 4.08	ハローワーク主催のジュニアインターンシップ、兵庫専各連主催の職業体験講座、本校主催のハローワーク体験ツアー等を実施し、職業観・勤労観の育成を含め、生徒の進路意識を高めるように努めた。(2年次全体と3・4年次の一部生徒を対象とした)				
計画性を持った研修の実施		実践目標	フリーターが増加する昨今、HRや「進路のしおり」等の配布物、就職説明会等を通じて、正規就労の意味や大切さを十分に理解させる。					
		成果 3.75	「進路のしおり」、スクーリング時実施の「就職説明会」と「就職セミナー」、および、就職希望者との個人面談の機会を通じて、正規就労の意味等について、できる限り、指導に取り組んだ。(3・4年次の生徒を対象とした)					
教職員の資質向上	実践的指導力の向上	実践目標	スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。		<p>本校の課題、生徒のニーズを踏まえた計画的な研修を進めていく。</p>			
		成果 3.98	学校評議員による授業参観は生活体験発表会の参観を兼ねて実施した。また、授業教室の巡回は概ね達成できたと思う。今後は、授業参観を各自の学習指導に生かすことが必要である。					
	計画性を持った研修の実施	実践目標	当面する諸課題に対し、生徒指導・教務・教育相談・人権教育・情報企画等の各部署が全教員対象の研修会を企画し、計画的に実行する。					
		成果 3.98	警察、弁護士会等との連携や定期的なスキルアップ研修など、計画的に研修会を実施し、指導力の向上に努めた。					
教職員の資質向上	計画性を持った研修の実施	実践目標	特別支援教育コーディネーターを軸に研修を進め、教職員全体の支援能力の向上を図る。					
		成果 4.02	キャンパスカウンセラーを講師として、事例研修会を実施し、共通認識を図るとともに支援方法を学んだ。					

危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	実践目標	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。						
		成果 3.49	危機管理マニュアルを策定した。今後は毎年の見直しの中で、実情を踏まえたものへの改善を継続的に進める必要がある。						
	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	実践目標	「通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制」を検討・工夫し、防犯に関する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組みを行う。						
		成果 3.21	防犯に関する研修会を弁護士を招いて行った。危機管理に関する情報提供を積極的に進め、家庭へもプリントを配布しているが、地域との連携は進んでいない。						
	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	実践目標	災害発生時に生徒が的確に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。						
		成果 3.34	年度当初に防災管理組織とその任務を全職員で確認した。職員はスクーリング毎にQマスクを携帯してすばやく応急措置が取れるようにしている。						
		実践目標	防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにしたHR指導が行えるようにする。		防災や交通安全に関する知識が身につき、意識が高まりましたか。 成果 2.73				
		成果 3.28	安全HRを設定し、災害時の避難に際しての注意、避難経路の確認を行った。						
	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	実践目標	レポート・スクーリングの一環として、社会体育施設や図書館等を利用し、調べた内容について報告するような教材を工夫・設定する。					
			成果 3.19	地歴公民、体育のレポートにおいて、社会体育施設や図書館等を利用し、調べた内容について報告するような教材を作成している。					
自ら学び自ら考える力の育成		実践目標	県立神出学園と連携し、多様な体験課題を与え、その解決に当たらせる。						
		成果 3.54	神出学園のプログラムとして、「自己理解や社会性の伸長を支援する」「生き方や進路の選択を支援する」「自主性や創造性の伸長を支援する」内容での多様な体験課題に対し解決に当たらせた。						
								危機管理マニュアルの見直しを進めるなかで、教職員の危機対応力向上を図っていく。	

基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	実践目標	各教科で評価基準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を行う。		青雲高校ではどのようにすれば単位が修得できるかが分かりやすいですか。	成果 3.85		評価内容	通信制の学習システムを理解させ、基礎基本に戻って生徒の理解を助ける努力がされていると感じますか。
		成果	3.89	各教科で評価基準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を教務部で検討を行った。					
		実践目標	本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指した学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。		他の学校にはない入門科目(英語・数学・社会)があって、学習しやすいと思いますか。	成果 3.61		評価	<ul style="list-style-type: none"> ・入門科目の実施、レポートへの指導等、生徒の実態に対応した努力をしている。 ・生徒が自分の学習進度等を知り、自覚的に取り組むよう努力している。 ・努力を十分に感じる。学ぶ楽しさを感じさせることが重要である。 ・単位修得までの流れなどの説明がよく出来ている。
		成果	3.96	基礎学力の定着を目指した入門科目を実施しつつ、生徒の実態に合わせて、レポートの問題の問いかけ、解答方法などの内容に検討を加えている。					
総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	実践目標	「総合的な学習の時間」についてのグループ会議を定期的に関催し、3年間を見据えた計画を立案し、実施する。		「総合的な学習の時間」で学んだことが役に立っていますか。	成果 2.97			
		成果	4.00	生徒の本校での学習に資するために新学習指導要領と生徒の実態に沿って「総合的な学習1」の内容を平成23年度から「本校での学習方法」に変更することを決定した。					
		実践目標	生徒の興味・関心や適性を的確に把握し、そのニーズに合った学習テーマを設定し、全教員が一致して取り組む。						
		成果	3.50	生徒の授業への興味・関心・適性を把握し高めるために生徒の実態とそのニーズを研究し、その学習テーマをレポート・授業の中で工夫している。					
個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	実践目標	新しい評価方法について、全教員が研究し、各教科の評価について意見交換を行う。						
		成果	3.24	興味・関心・意欲等の評価基準を加えた評価基準を検討し、来年度から生徒の評価基準として生徒にもシラバスに明確な形で掲載した。					
		実践目標	公開授業の実施等で授業の改善を目指し、本校生に合ったスクーリングのあり方を検討する。		面接授業は分かりやすいですか。	成果 3.05			
		成果	3.47	毎年10月のスクーリングで職員間の授業公開を行っており、教員間の授業見学でスクーリングのあり方を各教科で検討した。					

本校の生徒にとっての「学習内容の基礎基本」とは何かを改めて議論していく。また、学習の評価システムについて生徒の実態を踏まえた形のもの进行研究していく。

安全・健康教育	事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める	<p>実践目標 安全点検を定期的に行う。救急処置などの安全教育の研修会等を企画する。</p> <p>成果 3.93 月毎の安全点検と定期的な検査を行い、良好な学習環境の維持管理を行った。照度検査の結果を受けて、照明器具の交換を行った。消防署と連携して、消防訓練を実施した。</p>						生徒の受診率を上げるためのより一層の工夫を図りたい。
	健康に関する認識を高める取組み	<p>実践目標 健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図る。保健室利用者への丁寧な対応。</p> <p>成果 3.82 「保健だより」を通じて、健康への関心を高めた。1年次以外にも自費によるX線の受診機会を設けた。健康診断は、新型インフルエンザによる休校のため実施日が大幅に変更になり、昨年度より受診率は下がった。事後に個別の治療勧告を行った。</p>						
課題教育 人権教育	人権教育推進体制への取組	<p>実践目標 長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進める。</p> <p>成果 3.44 過去のHR展開や世論をも考慮し、適切なテーマを進めた。</p>		<p>人権HRを受けて「デートDV」の実態や、その理不尽さや怖さなどがよく分かりましたか。</p> <p>成果 3.37</p>				生徒の人権意識に効果的に働きかけるような教材やHRの持ち方を研究する。
		<p>実践目標 多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部・各教科と緊密な関係を取り、生徒一人ひとりを大切にす人権教育推進体制を構築する。</p> <p>成果 3.51 あらゆる場面で、生徒一人ひとりを大切にするという発想で教育活動を行っている。</p>						
新しい通信制教育	e-Learningの実施による新しい通信教育の実現	<p>実践目標 本格的なe-Learningの実施に向けて、全教科でWebによる教材配信や新教育システムを使った電子放送視聴の実施等の取組みが行なえるようにする。</p> <p>成果 3.72 教材配信については研修を続けている。電子放送視聴は実施可能な教科が増えてきている。</p>		<p>e-Learningを利用したいと思いますか。</p> <p>成果 3.00</p>		<p>評価内容 新しい技術を使って、生徒の興味関心を高めたり、時間の不足を補ったりする工夫がされていますか。</p>		<p>教員のICTに関する技術やセキュリティ、個人情報の保護等に対する意識の一層の向上を図り、全教科でWebによる教材配信や電子放送視聴が行えるようにして、不登校経験者や仕事に忙しい生徒の学習を助ける。</p>
	e-Learningの実施に向けた教員の取組み	<p>実践目標 e-Learningの実施に必要な教員の技術やセキュリティ、個人情報の保護等に対する意識の向上を図る。</p> <p>成果 3.68 計画的に研修(水・金曜のミニ研修、月末の情報研修会)を実施してきたため、職員の技術、意識などが高まった。</p>				<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子放送視聴の実施と情報研修会を計画的に実施する等、多様な工夫をしている。 e-learning実施の取組に工夫が見られる。 IT教育についていけない生徒にも興味を感じさせる工夫が必要。 インターネットの活用など新技術の導入に熱心。但し、その新技術が社会的に残っていくのかどうかの見極めは難しい。慎重かつ迅速な判断が必要。 		